



平成 21 年 3 月 25 日

研究発表

「アルツハイマー病エピトープペプチドを蓄積する遺伝子組換えダイズの開発」

について

当社は、京都大学、独立行政法人農研機構北海道農業研究センター、弘前大学と経済産業省プロジェクト<sup>注</sup>に参加し、共同研究を進めております。

今回、この研究成果が、社団法人日本農芸化学会の大会実行委員会が選定した“トピックスにふさわしい発表テーマ 29 題”の一つに選ばれ、化学工業日報（3 月 22 日付）で紹介されました。

この共同研究では、当社が特許を保有する「ウイスキー超音波法」（特許第 3312867 号）を活用した遺伝子導入により組換えダイズを効率良く作成するシステムを確立するとともに、種子貯蔵タンパク質の性質を利用してアルツハイマー病ワクチンとして期待できるエピトープペプチドをダイズ種子中に安定して蓄積させる技術を開発し、その種子の作出に成功いたしました。遺伝子組換え植物でアルツハイマー病のエピトープペプチドを生産させたのは世界で初めての成果です。

今後、このダイズ種子から生産したエピトープペプチドの機能性評価試験（動物実験）を実施し、その結果十分な効果が認められれば、今後 10 年程度をかけて医薬品としてのアルツハイマー病ワクチンの開発に進むと考えております。

この研究内容は、今月 3 月 29 日に福岡で開催される日本農芸化学会大会で発表いたします。

注：プロジェクト名

「植物機能を活用した高度モノ作り基盤技術開発 / 植物利用高付加価値物質製造基盤技術開発（松村健プロジェクトリーダー：独立行政法人産業技術総合研究所）」

以 上